回覧

2020 年 12 月

まつたん　かわら版　第１号

笹賀の皆さんには、学生がいつもお世話になりありがとうございます。

今年はコロナ禍の下で普通だと思っていた生活が遠のき、日々の挙動にも細心の注意が求められております。松本短大は、毎年、3 学科がそれぞれ工夫して「公開講座」を開いてまいりました。残念ながら現今の状況では、それも叶いません。そこで、地域の皆さまに向けて情報のご提供をと考え「カベ新聞的」な情報紙を発行させていただくことにしました。少しでもお役に立てていただければうれしく思います。

松本短期大学　学長　木内義勝

ー　地域座談会　ー
童謡がなくなる! 子どもたちに歌い継ぎたい日本の心

座談会参加者

笹賀地区福祉の地域づくり協議会長 太田尚行さん、ママの音楽隊ぴあのん代表 永井知可子さん

松本短期大学学長 木内義勝、松本短期大学幼児保育学科教授(子どもの音楽表現担当) 山田真治

三世代の活動は伝統行事が中心

山田　最初に、笹賀地区での子どもに向けた活動を教えていただけますか。

太田　去年、各町会の活動を調査しました。季節の節目の行事、例えば、夏祭りや三九郎、餅つき大会などは世代を越えて、それぞれの町会で集まってやっていることがわかりました。

山田　その調査はどうして行ったんですか？

太田　祖父母、両親、子どもの三世代が地域の活動の関わっているのかを見直してみようということですね。それで、伝統行事が中心に行われている事が分かったんですが、これだけでは、今の子どもたちには十分ではないだろうということで、新しいことも始めています。

木内　それは、どんな？

太田　モデル地区として二美町 2 丁目では、学校が早く終わる水曜日の 3 時から公民館を開放して、子どもたちが集まって遊んだり、宿題をしたりできる場を提供しています。歌に関する活動は「歌声ひろば“ささが”」や福祉ひろばを使った集まりをやっています。

山田　歌う集まりには子どもたちも？

太田　これは、お母さんや高齢者が参加していますね。

永井　私は笹賀に住んで 8 年ほどになります。子どもが小さいうちはいろいろなサークルがあるのですが、音楽を取り入れている所は少ないと感じていました。

唱歌や童謡を知らない子どもたち

山田　大人が懐かしいと思って歌うだけではなく、子どもたちに歌い継いでいかないと、童謡や唱歌が歌われなくなっていってしまうんですよね。

永井　小学生になれば、歌集に唱歌が載っていますね。

木内　どんなのが載っていますかね？

永井　「赤とんぼ」や「茶つみ」などの歌が。わらべうたはリトミックで取り入れているケースが多いです。松本エリアは、唱歌や童謡を意識して取り入れようと考えている音楽関係者が多

いのではないかと思います。

太田　自分が子どもの時には、学校で教わったから歌えるようになったということではないと思う。童謡しかなかった時代だったってことかもしれないけれど、大人になって聴くと、歌詞が心に沁みて、とても価値があると感じますね。

山田　「めだかの学校」を作った中田喜直先生は、今の子どもはどこに行ってもテレビやラジオで情報が入りすぎる、その時代を何とかするのが大人の役目だとおっしゃっていました。大人が環境を整えていかなければいけないということですね。

木内　都会では「運動の家庭教師」というのがあるそうです。昔だったら、子どもは身体を動かして遊ぶのが当たり前だった。今は意図的に場を作る必要があるということなんでしょうね。

太田　親子で歌うことが大切だと思うんですよ。親だけでもダメ、子どもだけでもダメで、親子で歌える機会を作りたいです。

木内　童謡はメロディーと言葉がやさしいですね。

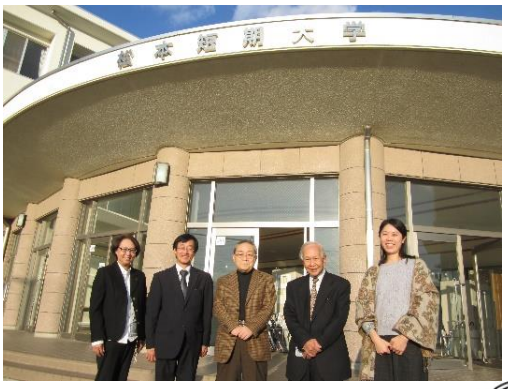
山田　子ども目線で書かれているからだと思います。

太田　年を取ってから聞くと、涙が出てきます。まずは親子で歌う楽しさを知ってもらうような企画ができるとよさそうですね。

永井　高校に音楽を教えに行くと、高校生はほとんど童謡や唱歌を知りません。

山田　保育の現場でも、若い先生は知らない人が増えてきています。

永井　今は忙しいお母さんも多いので、教育現場で教えてくれる人を育てるということも大切かもしれません。



太田　小学校や幼稚園、保育園で歌ってほしいですね。

山田　以前、小学生に「シャボン玉」を教えたことがあって、その時に歌詞の意味を教えたんですね。詩の解釈には諸説ありますが、作詩をした野口雨情は、生まれた娘さんが１週間で亡くなってしまった。やっと産まれて、屋根まで飛んだのに、壊れて消えてしまった娘さんを想って作った歌なんだよと。すると、3年生の男の子が「亡くなったおじいちゃんを思い出した」って、授業の終わりに言ってくれたんです。童謡を通して、命を感じてくれたんですね。

太田　日常で、そういう機会が増えてほしいですね。

歌声よ響け　笹賀から！

山田　唱歌や童謡を「良い」「残したい」と思っている人はたくさんいるので、それを実現するための形を作っていきたいですね。伝えたいと思っている大人の気持ちを実現化するには、どのような取り組みをしていったらいいのでしょう。

永井　育休を取ってる最中の教員や音楽関係者もいるので、笹賀地区の地域の方の力をお借りすれば何か発信できるのではないでしょうか。

木内　本学には保育士を目指す200人の学生もいますし、日本唱歌童謡教育学会も立ち上げました。

山田　童謡や唱歌を子どもたちに残していく地域の取り組みができるといいですね。「笹賀モデル」とでも言いましょうか。

永井　今年はできなかったけれど、次年度の公開講座で取り上げてもいいですね。

山田　地域のみなさまと学生と一緒になって、唱歌や童謡を歌い継いでいく活動ができるよう、これからもどうぞよろしくお願いします。

新たな形での地域交流「まつたん かわら版」第１号。いかがでしたか?
来月は看護学科が「**新型コロナウィルス禍における看護学科の現状と取り組み**」というタイトルで第２号をお送りする予定です。
「まつたん かわら版」に、ご感想やご希望をお寄せください。

e-mail:mjc-gakuseibu@matsutan.ac.jp
松本短期大学地域交流委員会
委員長　生田惠津子

MATSUMOTO JUNIOR COLLEGE
松本短期大学